



### 本号の内容

- ・ 計算科学研究センターCP-PACS稼働終了
- ・ アスベスト対策に係る対応状況説明会開催
- ・ 常陽ビジネス交流会開催
- ・ イノベーション・ジャパン2005大学見本市開催
- ・ CEATEC-JAPAN 2005 に最多5件出展
- ・ 第2回不審者侵入対応研修会実施
- ・ 附属坂戸高等学校で特別講義実施
- ・ 情報学類出前講義実施
- ・ 附属大塚養護学校中学部・高等部生徒が学長訪問
- ・ クリーン・デー実施
- ・ 国民年金のお知らせ
- ・ 秋季スポーツ・デーに伴う交通規制
- ・ 石打研修所冬季利用及び予約手続等
- ・ STUDENTS紙フォトコンテスト写真募集
- ・ 平成17年度学長主催外国人留学生懇談会開催
- ・ 初心者（新規）講習会「放射線業務従事者講習会」（第99回）開催
- ・ ArcGISキャンパス・ライセンス
- ・ 2005年筑波アジア農業教育セミナー開催
- ・ 第一学群人文学類文化講演会開催
- ・ 比較市民社会・国家・文化特別プロジェクトCSCセミナー等開催
- ・ 第31回リスク工学研究会開催
- ・ 「お茶会」にいらっしやい
- ・ 各種表彰
- ・ 前号の訂正

# 2005 18

2005年18号（通巻1110号）

発行： 筑波大学

編集： 総務・企画部

発行日：平成17年10月19日

## 生命科学動物資源センター発生工学棟が竣工



岩崎洋一学長ら関係者によるテープカット

の委託により、生命科学や医学研究のために利用する遺伝子改変マウスを作製するとともに、マウスを用いる大規模研究プロジェクトに利用されます。

発生工学棟は、鉄筋コンクリート造、地上4階建て、高さ18m、各フロア約1,200m<sup>2</sup>、施設全体で約4,800m<sup>2</sup>の規模であり、5つの大型プロジェクトに対応するマウス飼育区域、遺伝子改変マウス作製等受託事業のためのマウス飼育区域、遺伝子構造解析室、組織解析室などが整備されています。

遺伝子改変マウス作製等受託事業は平成14年1月より開始しており、年間約80系統

生命科学動物資源センター（八神健一センター長）の新棟・発生工学棟が完成し、10月4日に竣工記念式が盛大に行われました。

発生工学棟は、筑波大学初のPFI（民間資金活用）事業として推進され、国内最大級の実験用マウスの供給及び研究拠点として、全国の大学や研究機関から



新棟全景

の新しいマウスが作製されてきました。本施設の竣工により、2倍の年間150系統の新たなマウス系統を作製供給する基盤が整いました。

計算科学研究センターのCP-PACSが稼働を終了

計算科学研究センターでは、9月29日に超並列計算機CP-PACSの稼働終了式を行いました。CP-PACSは平成4年度から5カ年にわたり、当時センター長であった岩崎洋一学長が研究リーダーとなり、研究課題「専用並列計算機による「場の物理」の研究」によって開発制作され、平成8年9月に完成し、同年11月には「世界の高性能計算機トップ500」リストの第一位にランクされた計算機です。

当日は開発制作に携わった関係者の見守る中、岩崎学長によるシャットダウンコマンド入力によって約9年間に及ぶ稼働を停止しました。

この間、物理学の基本的な重要問題の数値的研究を推進し、素粒子物理学、宇宙物理学、物性物理学における物理学諸分野の永年の懸案の解決に大きな成果を挙げました。なお、計算科学研究センターでは、この稼働終了に先立ち、本年度から拠点形成事業である「計算科学による新たな知の発見・統合・創出」を開始しています。この事業では、CP-PACSに替わる次期計算機として超並列クラスシステムPACS-CSを開発中で、平成18年7月には稼働開始が予定され、計算科学研究の飛躍的推進を目指しています。



岩崎洋一学長によるシャットダウンコマンド入力 超並列計算機CP-PACSの前での記念撮影

アスベスト対策に係る対応状況の説明会が開催される

アスベスト（石綿）対策に係る本学の対応状況と現地調査の状況について、9月15日に設置された筑波大学アスベスト対策連絡会（座長：岡本健一環境安全管理室長）から、学生・教職員と本学が所有する職員宿舎の入居者等に対して本学のアスベスト対策に係る対応状況について説明会を実施しました。

説明会は9月27日の全学説明会をはじめ、平砂・追越学生宿舎、一の矢学生宿舎、東京キャンパス（大塚地区）並びに竹園、吾妻及び並木職員宿舎で合計7回開催し、延べ550名の参加者がありました。

説明会は、

- ・ 岡本筑波大学アスベスト対策連絡会座長による対応状況の概要説明
- ・ 澤本清史施設部長によるアスベスト調査の内容と状況について
- ・ 木股三善教授（生命環境科学研究科）によるアスベストについて（科学的な見地から）
- ・ 大塚盛男保健管理センター所長によるアスベストについて（医学的な見地から）
- ・ 質疑応答

の順に進められ、質疑応答では全ての質問に対し、応答が行われました。なお、今後も不明な点等があれば、以下の相談窓口まで問い合わせ願います。

大学会館での説明会の様子



学生宿舎での説明会の様子



建築物のアスベストに関する相談窓口：施設部施設企画課 <sup>オハラ</sup>尾原、<sup>カミヤ</sup>神矢、<sup>エガラ</sup>荏柄  
（TEL2272, 2273, 2274）  
健康に関する相談窓口：保健管理センター <sup>岡</sup>岡（TEL2041）

常陽ビジネス交流会が開催される  
 - 研究事業部産学連携課 -  
 - 産学リエゾン  
 共同研究センター -

9月21日、10:00～16:00の間、つくば国際会議場（つくば市竹園）において、常陽ビジネス交流会が開催されました。

このイベントは、主催者である常陽銀行が創立70周年を記念して、広く企業の交流を深め、ビジネスの益々の拡大発展を図るため、「ものづくり」をテーマとして、自社のPR、情報交換、技術相談等の場として企画・開催したものです。

本学と常陽銀行とは、連携協定を結んでいることなどから、出展・協力の依頼を受け、産学リエゾン共同研究センター（ILC）及び本学の産学連携活動を学外から支援する筑波大学産学連携会（TOMO）が共同で出展し、研究ニーズの紹介やILCの事業紹介、企業等から各種科学技術相談に対応するとともに、産と学の連携のパイプ役の一端を担う筑波大学産学連携会の事業紹介を行いました。

短時間の開催ながら、会場には多数の来場者があり、盛況のうちに終了し、その後開催された懇談会においても、企業出展関係者らとの積極的な情報交換が行われました。



開会式テープカット

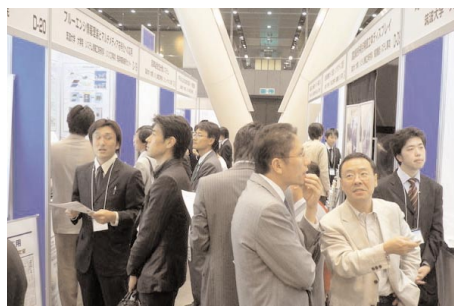


会場の様子

イノベーション・ジャパン  
 2005大学見本市が開催される  
 - 研究事業部産学連携課 -

9月27日～29日の3日間、東京国際フォーラム（千代田区有楽町）において、イノベーション・ジャパン2005大学見本市が開催されました。このイベントは、科学技術振興機構、新エネルギー・産業技術総合開発機構が主催し、文部科学省、経済産業省などが共催する東日本最大級のイベントで、国内大学の最先端技術と産業界のマッチングを図ることを主な目的としており、延べ約36,000人の来場者がありました。出展構成は「大学ゾーン」を柱に「TLOゾーン」、「大学発ベンチャーゾーン」のほか、大学発ベンチャー企業を支援する金融機関などによる「大学発ベンチャー支援ゾーン」や「研究機関ゾーン」により構成され、日本の産学連携の新しい出展モデルの構築により、技術移転、新産業創造を加速的に推進しようとするものです。

本学からは、システム情報工学研究科からIT分野領域において、寅市和男教授（フルーエンシ情報理論とマルチメディア符号化への応用）、加藤和彦教授（自律連合型分散システム）、北川博之教授（時系列ストリームデータ統合利用システム）、山口喜教教授（FPGAによるNIDS向け高速パターン検査回路）、大田友一教授（自由視点映像のライブ配信とインタラクティブ提示）、掛谷英紀講師（高臨場感多視点裸眼立体ディスプレイ）、磯部大吾郎助教授（統一理論によるロボット機構のフィードフォワード制御システム）（掲載順不同）などの研究成果（7ブース）及び知的財産統括本部（1ブース）の計8ブースを出展しました。更に寅市教授、加藤教授らは、新技術説明会での報告も行い、研究成果のアピールに積極的に努めました。開催期間中、それぞれのブースでは、企業等からの来場者に技術移転などを図るべく、研究成果の紹介が積極的に行われ、システム情報工学研究科の研究技術のレベルの高さをアピールすることができました。



会場の様子



CEATEC-JAPAN 2005 に全出  
展者中最多の5件を出展

10月4日～8日まで幕張メッセ（千葉）で開催された「CEATEC-JAPAN 2005」に、北海道大学から鹿児島大学まで37大学1専門学校が合計48件を出展しましたが、本学はそのなかで最多の5件を出展しました。

出展したのは、システム情報工学研究科知能機能システム専攻の岩田洋夫教授、鬼沢武久教授、山海嘉之教授及び掛谷英紀講師並びに谷川武助教授（人間総合科学研究科，社会医学）のグループで、それぞれ球面ディスプレイ，人間中心システム，ロボットスーツHAL，飛び出す立体ディスプレイ，睡眠時無呼吸症候群（SAS）研究の展示やデモを行いました。

第2回不審者侵入対応研修会を  
実施 - 附属小学校 -

附属小学校では9月2日に、不審者侵入に対する防犯訓練を実施しました。同校では、来訪者の事前アポイント制の導入や入校時のチェック体制の強化、また「訪問者及び不審者侵入対応マニュアル」を作成するなどして、防犯対策に取り組んできました。昨年度は、より具体的な非常時の対応方法について検討していくために、教職員が実際に不審者対応を行う訓練形式の研修会を実施しました。今年度は、不審者が校舎内に侵入したという設定で、非常時の有効な対応方法について、研修会を行いました。大塚警察署と相談し、想定した不審者侵入のモデルケースをもとに、同じ訓練を2回行いました。1回目の訓練では、凶器を持った犯人との距離のおき方や、ネットランチャーなどの機材の効果的な使用方法について、講師から指摘を受けました。これにより2回目の訓練では、1回目の反省を活かして、よりの確で敏速な対応を行うことができました。また、訓練後には大塚警察署のスクールサポーターから、訓練を繰り返すことの重要性や対応方法の検討などの指導がありました。



ネットランチャーを用いた  
訓練形式研修の様子

今回の対応訓練では、教室等への不審者の侵入を防ぐためには、どのようなものを防具として準備し、また対応すべきかなど、これから検討すべき課題も見えた大変有意義な訓練となりました。

附属坂戸高等学校で特別講義を  
実施

9月29日に徳永澄憲教授（生命環境科学研究科），志賀和人助教授（同），戒能洋一助教授（同），菅谷純子講師（同）が坂戸高校で特別講義を行いました。

高校1年次生を対象とした「産業社会と人間」という授業の一環で、各先生方の高校生時代から、研究者を目指し現在に至るまでの過程を中心に講義が進められました。また、筑波大学の紹介ビデオを視聴し、筑波の自然や大学の充実した施設についても知ることができたようです。大学の先生から直接講義を受けることで、大学進学や研究分野への理解が深まり、生徒が自己の進路を見つめるよい機会になりました。



徳永澄憲教授による講義風景

情報学類が出前講義を実施  
- 附属坂戸高等学校 -

10月3日に、附属坂戸高等学校において、田中二郎情報学類長による出前講義が行われました。対象は工学情報科学系列2～3年次の生徒で、50人が受講しました。今



講義する田中二郎情報学類長

回で3年連続の情報学類長自らが行う出前講義となりました。テーマは「次世代ヒューマンインターフェースとユビキタスコンピューティング」で、近未来にコンピュータがどのように変わっていくか等、コンピュータと関連させた内容でした。同校の工学システム情報科学系列の生徒は情報に関心の高い生徒が多く、熱

心に受講していました。講義終了後、質疑の際に多くの生徒が質問を行い、大変活気のある講義でした。また、情報学類についての紹介や入試についての説明も行われ、多くの生徒が情報学類に関心を持ったようでした。講義終了後は、同校が取り組んでいる文部科学省指定の「IT人材育成プロジェクト」における研究において様々な視点からアドバイスをしていただき、大変有意義な1日でした。

附属大塚養護学校中学部及び高等部の生徒が岩崎洋一学長を訪問

附属大塚養護学校中学部及び高等部の生徒は、5年前から筑波大学学園祭「雙峰祭」に参加しており、今回の学長への訪問は3年ぶりになります。当日の天気は霧雨模様でしたが徐々に回復し、日程どおり実施されました。

10:00頃、本部棟玄関前に到着すると、担当職員の方に迎えられ、学長室へと案内されました。岩崎洋一学長と名刺交換（生徒は自筆の名刺を事前に作りました）をし、次に同校作業班の製品紹介（焼き物、スリッパ、木工製品）と、学校行事紹介を行いました。生徒達は少々緊張気味でしたが、最後の「学長への質問」では、朝食内容、好きなテレビ番組、好きな食べ物等、元気に質問しました。岩崎学長との楽しい歓談で、60km程離れている筑波キャンパスと同校との距離がとても短く感じられました。



学長室での記念撮影

午後は総合体育館にて、後藤邦夫教授（人間総合科学研究科、体育）よりGボールを使った授業を受け、楽しく運動することもできました。

公務の多忙な中、温かく迎えていただいた岩崎学長、担当職員の方々、運動の機会を与えていただいた後藤教授、お世話いただいた学生の方々に感謝いたします。

クリーン・デーの実施について  
- 総務・企画部総務課 -

クリーン・デーを次により実施しますので、ご協力をお願いします。

期 日：10月26日（水）15:00～17:00（小雨決行）

雨天で実施できない場合は、10月31日（月）に順延する。

場 所：各建物及び道路周辺

参加対象者：全教職員及び学生

実施内容：空き缶などのゴミ収集、不要物品などの整理・整頓

実施にあたっての留意事項

- ・全学一斉に行うことを原則とするが、業務の都合により実施日等を変更しても差し支えない。
- ・周知方法については、教員及び学生の多くの参加が得られるよう、筑波大学公式ホームページのスタッフオンリー及びWeb Office掲示板等により周知する。
- ・可燃物・不燃物等の分別をし、指定された場所へ運搬する。
- ・作業範囲は、各実施部局等で設定し実施するものとする。
- ・クリーン・デー実施結果を所定の様式により報告する。
- ・クリーン・デー実施に関する事務は、総務・企画部総務課が行う。

国民年金のお知らせ

- 組織・人事部人事課 -

茨城社会保険事務局（年金課）及び土浦社会保険事務所（国民年金業務第一課）から、20歳台のお子様をお持ちの方を対象とした制度の周知依頼がありましたので、次のとおりお知らせします。

20歳台のお子さんが、学生、無職など、本人所得が一定以下の場合、保険料納付を猶予できます。

手続きさえしておけば、交通事故など『もしもの時』に障害基礎年金が受けられます。〔未納（無届出）だと障害基礎年金は受けられません。〕

保険料を親御さんが支払う場合、全額『社会保険料控除』が受けられ、税金が戻る所以で大変お得です。

保険料を親御さんが払うなら

支払った保険料は全額「社会保険料控除」が受けられます。納付した保険料は全

額（お子さんの分でも）年末調整（確定申告）の際、「社会保険料控除」が受けられます。例えば、年収600万円の方が、国民年金保険料1年分、162,960円の「社会保険料控除」を受けると、所得税で約26,000円程度戻ります。

なお、この件についてはWebOfficeの「全員にお知らせ・表示」にも掲載しています。  
 問合せ先：組織・人事部人事課福祉第二係（TEL6096）

秋季スポーツ・デーに伴う交通規制について

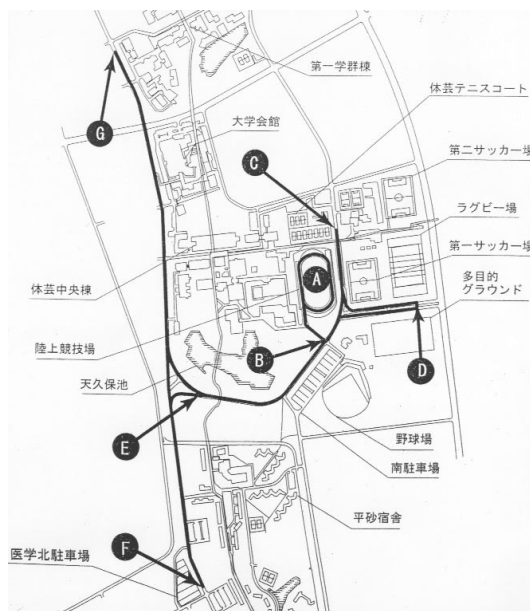
- 学生部学生生活課 -

秋季スポーツ・デーが、10月22日（土）、23日（日）に開催されます。開催期間中に会場周辺（陸上競技場等）を自動車等で通行する場合は、徐行運転を励行し、ループ道路内の路上駐車は厳に慎むようお願いします。

なお、23日（日）に行われる駅伝競技開催中（12:30～16:00）は、事故防止のため学内道路のうち駅伝コースとなっている区間（次表・図（太線部）を参照）において一般車両は通行止めとしますのでご協力ください。

問合せ先：学生部学生生活課課外教育（TEL2247，2248）

男子の部		
区	コース順	Km
1	ABCD BEFG EBA	5.47
2	AB EFG EBA	4.48
3	ABC DBE BA	2.53
4	AB EFG EBA	4.48
5	ABCD BEFG EBA	5.87
女子の部		
区	コース順	Km
1	AB EFG EBA	4.48
2	ABC DBE BA	2.53
3	ABC DBE BA	2.53
4	AB EFG EBA	4.88
ミニの部		
区	コース順	Km
1	AB EFG EBA	4.48
2	ABC DBE BA	2.53
3	AB EFG EBA	4.88



石打研修所冬季利用及び予約手続き等について

- 学生部学生生活課 -

次の期間における石打研修所の利用及び予約手続き等をお知らせします。

対象期間：平成17年12月20日（火）～平成18年3月31日（金）

ただし、年末年始（12月28日（水）～1月5日（木））を除く。

所在地等：新潟県南魚沼郡塩沢町舞子1819-2（舞子高原後楽園スキー場隣接）

定員：80名（学生72名・教職員8名）

予約方法：

特別利用（学校行事・授業など）の場合

別に定める「特別利用申込書」を、研究科長等の責任者名で学生部学生生活課に提出してください。

締切：10月31日（月）

一般利用の場合

受付開始日時：11月18日（金）9:00～，先着順

・特別利用の予約状況は、11月11日（金）9:00から本部棟2階に掲示します。

・利用予定日の1ヵ月前の同日（1ヵ月前が土・日曜日、祝祭日にあたる場合はその前日）から受け付けます。

注1：予約は1団体1回、4泊5日以内です。

注2：他の利用者に迷惑のかかるようなキャンセルや、大幅な人数の変更が生じないように予約してください。

注3：研修所の休所日は、原則として毎週水曜と木曜です。

注4：12月29日（木）～1月3日（火）は受け付けしませんので、1月29日（日）～2月3日（金）の宿泊予約は12月28日（水）から受け付けます。

利用許可申請手続き

予約のとれた方は、利用日の7日前まで（7日前が土・日曜日、祝祭日にあたる場合はその前日）に「利用願・利用者名簿・食事申込書」に利用料（食事料金を除く。）を添えて、学生部学生生活課 番窓口で手続きをとってください。

なお、研修所では予約も含め、受け付けをしていないので注意してください。

注意事項

- ・電話による予約は受け付けません。
- ・上記対象期間以外の予約受け付けは、従来どおり2ヵ月前の同日からとなります。
- ・詳細については、学生部学生生活課（福利厚生、TEL2250）にお問い合わせください。

STUDENTS紙フォトコンテスト  
写真募集 - 学生部学生生活課 -

学内誌「STUDENTS」では、バラエティーに富んだ親しみやすい紙面を目指し、昨年度に引き続きフォトコンテストを行います。テーマは「筑波大学」で、本学に関する写真でしたら全てOKです。過去の写真も歓迎します。一人5点まで。

応募資格：学群生・大学院生・教職員・卒業（修了）生ほか  
（学生の家族、ボランティア・アルバイト等も含む。）

締 切：12月7日（水）

作品送付先：学生担当教員室（第一学群C棟1C203）にて手渡ししか、学生担当教員室へメール等でご送付ください。

審 査：審査委員長 守屋正彦学生担当教員室長

審 査 委 員 木村浩助教授（人間総合科学研究科，芸術）ほか

応募方法等：本学公式ホームページ（URL：http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~gakutan/event.html）に応募方法等の詳細を掲載しています。

問 合 せ 先：学生担当教員室（TEL2269）

平成17年度学長主催外国人留  
学生懇談会の開催について

学長主催外国人留学生懇談会を次のとおり開催します。今年度在籍の外国人留学生、指導教員、関係教職員、チューター及び学外関係者が懇談の機会を持つことによって相互の親睦を図ることを目的としています。

また、懇談会に先立ち、地域団体等と留学生受入れに伴う様々な問題及び留学生の支援事業についての意見交換会も開催します。

日 時：11月16日（水）17:30～19:00

場 所：第二学群大食堂

プログラム：1 学長挨拶 2 来賓紹介  
3 乾杯（教育担当副学長） 4 アトラクション

対 象 者：外国人留学生、教職員、チューター、学外関係者

問 合 せ 先：留学生センター総務・企画係（TEL6062）

初心者（新規）講習会「放射線  
業務従事者講習会」（第99回）  
の開催について

- 研究基盤総合センター  
アイソトープ部門 -

新たに放射線を取り扱う予定の教職員・学生等に対する法定の講習（教育・訓練）を次のとおり行います。なお、学生には掲示をしますが、指導教員におかれましても研究等を予定している学生に対し周知方をお願いします。

日時：11月 9日（水） 9:00～14:50 講義

15:00～受付開始 特別健康診断

10日（木） 8:40～17:00 実習（午前又は午後の半日となります。）

場所：講 義 アイソトープ部門講義室

特別健康診断 保健管理センター

実 習 アイソトープ部門実習室

定員：80名（先着順締切）

申込：10月31日（月）～11月2日（水）までに印鑑持参の上、アイソトープ部門事

務室に受講者本人が直接申し込んでください。  
申込用紙はアイソトープ部門事務室にあります。

ArcGISキャンパス・ライセンスについて

- 村山祐司教授  
(生命環境科学研究科)  
大澤義明教授  
(システム情報工学研究科)  
杉田倫明助教授  
(生命環境科学研究科)  
渡辺俊助教授  
(システム情報工学研究科)  
鈴木勉助教授(同)  
堤盛人助教授(同)  
森本健弘講師  
(生命環境科学研究科) -

本学では、文部科学省科学研究費「地理情報科学の教授法の確立 - 大学でいかに効果的にGISを教えるか - (研究代表者: 村山祐司教授, 研究期間: 平成17~20年度)」における活動の一環として、地理情報システム(ArcGIS)のキャンパス・ライセンスを取得致しました。これに伴い、学内ネットワークに繋がれたコンピュータ(Windows NT4.0/2000/XP)であれば、ライセンス・サーバー gis.sk.tsukuba.ac.jp (130.158.98.23)を参照することによりArcGIS(ArcView及びエクステンション全て、ArcSDE, ArcIMS, ArcPad等)を自由にインストールして利用することが可能です。

最新版のソフトウェアのダウンロード・サービス(現在はArcGIS 9.0, 本年12月にはArcGIS 9.1を提供できる予定)は「URL: <http://gis.sk.tsukuba.ac.jp/>」をご参照ください。ただし、それぞれの組織のネットワークの状態にも依存しますので、安定したライセンスの発給を保証するものではなく、研究活動の一環であるためサポート等を行うことも出来ません。また、ダウンロードに際して登録していただくアドレスは、利用者のメイリング・リストとして管理され、用途などについてアンケートに協力頂く場合がありますことをご了承のうえ、本ソフトウェアを研究・教育にご活用ください。

2005年筑波アジア農業教育セミナー(2005TASAE)の開催について

テーマ: 人類の生存・生産活動のための水資源管理と農林業教育が果たすべき役割  
会場: 大学会館特別会議室

講演者:

11月9日(水) 10:10~16:00

- ・Dr. Abdul Khabir Alim (アフガニスタン, International Organization for Migration (IOM), Afghanistan)
- ・Dr. Colin Chartres (オーストラリア, National Water Commission)
- ・Mr. Bunthan Ngo (カンボジア, Royal University of Agriculture)
- ・Dr. K. Palanisami (インド, Tamil Nadu Agricultural University)
- ・Dr. Seung Woo Park (韓国, Seoul National University)

11月10日(木) 10:10~14:00

- ・Mr. Bayani P. Ofrecio (フィリピン, National Irrigation Administration)
- ・Dr. Vanpen Surarerks (タイ, Chiang Mai University)
- ・Dr. Masami Okamoto (日本, Former Professor, College of Bioresource Sciences, Nihon University)

主催: 農林技術センター, 日本ユネスコ国内委員会

共催: (独)国際協力機構(JICA), 附属坂戸高等学校

問合せ先: 農林技術センター(TEL2755)

URL: <http://www.nourin.tsukuba.ac.jp/~tasae/>

多数の方々の参加をお待ちしております。(参加無料)

第一学群人文学類文化講演会の開催について

第一学群人文学類主催の文化講演会を次の日程で開催します。人文学類の学生・教員はもちろんのこと、他学類、一般の方々のご来聴も歓迎します。振るって参加ください。

日時: 11月7日(月) 15:15~16:30

場所: 第一学群D棟1D207

演題: 熊野信仰の鼓吹と参詣

講師: 林雅彦教授(明治大学法学部)

概要: 「絵解き」と称される文芸・芸能は、かつて洋の東西において大いに盛んを極めた宗教的な活動のひとつだった。我が国の絵解きの始まりは定かではないが、承平元年(931)年間であるという。鎌倉時代以降は、前



代とは大いに異なり、専従の演者によって、一般大衆を対象に、芸術的に変容した絵解きがなされるようになり、このような傾向は江戸末期に至るまで続いた。明治初年の廃仏毀釈によって、仏教界は多大な痛手を蒙ったなかで、件の絵解きは辛うじてその命脈を保った。しかし、第二次世界大戦後は、急激に衰退し、もはや風前のともしびと化しつつある。今回は、日本人の信仰を支えてきたビジュアル・コミュニケーションの手段・方法としての絵解きを、熊野比丘尼等の民間宗教者の役割にも着目しつつ、美術史・文学史、そして、日本史学での意義を明らかにする。

問合せ先：人文社会科学研究所（歴史・人類学専攻）根本誠二（TEL4424）

比較市民社会・国家・文化特別プロジェクトCSCセミナー等の開催について



比較市民社会・国家・文化特別プロジェクトでは次のセミナー等を開催します。皆様の参加をお待ちしております。

第42回CSCセミナーシリーズ

日 時：11月8日（火）16:45～18:00

場 所：総合研究棟B 112

演 題：日本映画における「女」市民たちの変貌

講演者：今泉容子教授（人文社会科学研究所，文芸・言語専攻）

第8回アジアの宗教運動と市民社会研究会

日 時：11月11日（金）15:30～17:00

場 所：文科系修士棟A409

演 題：Good Governance and the Role of Civil Society in Bangladesh

報告者：Syeda Naushin Parnini氏（人文社会科学研究所3年，国際政治経済学専攻）

第43回CSCセミナーシリーズ

日 時：11月11日（金）16:45～18:00

場 所：国際政治経済学棟3K311

演 題：The Evolution of Human Security as an Issue of International Relations

講演者：Harald KLEINSCHMIDT教授（人文社会科学研究所，国際政治経済学専攻長）

共 催：独立行政法人日本学術振興会「人文・社会科学振興のためのプロジェクト研究事業」（多元的共生社会に向けた知の再編）「多元的共生に関する国際比較」

問合せ先：大友貴史（E-mail：ohtomo@social.tsukuba.ac.jp）

第31回リスク工学研究会（RERM）の開催について

日 時：11月1日（火）18:15～19:15

場 所：総合研究棟B 1F公開講義室

題 目：iDCサービスのための情報セキュリティ面に関するリスク対策

講演者：中谷正典氏（セコム山陰株式会社 企画室室長）

問合せ先：リスク工学専攻 村尾修（TEL，FAX5370）

U R L：http://www.risk.tsukuba.ac.jp/meeting/term/index.html

RERMの趣旨等は，上記をご覧ください。多数の方々の参加をお待ちしています。

「お茶会」にいらっしやいませんか！

涼やかな秋風に、秋の深まりを感じる頃となりました。今年も教職員文化作品展の一環として、職員茶道部による「お茶会」を開催します。深まる秋の風情を楽しみ、侘び寂びの世界をあなたもちょっぴり体験してみませんか！どなたでも参加できますので、皆様是非お立ち寄りください。心からお待ちしております。

日 時：11月7日（月）17:30～20:00（受付は19:30まで。一席30分程度です。）

会 場：大学会館4階レクリエーション室（和室）

問合せ先：生命研・3専攻事務室 若梅玲子（TEL6601）

職員茶道部では、部員を募集しております。興味のある方はこの機会に是非見学においでください。（男・女を問いません。初心者大歓迎です！）

友納正裕氏と油田信一副学長が日本ロボット学会論文賞を受賞

システム情報工学研究科を修了（H14）し、現在JSTさきがけ研究プログラムの専任研究者として本学で研究を進めている友納正裕氏（システム情報工学研究科知能ロボット研究室）と油田信一副学長（研究）の共著論文「不正確さを許すマップと単眼ビジョンによる物体認識に基づく移動ロボットの屋内ナビゲーション」（日本ロボット学会誌22巻1号に掲載）が、2005年度日本ロボット学会論文賞に選考され、9月16日に第23回ロボット学会学術講演会の席上で表彰されました。



友納正裕氏

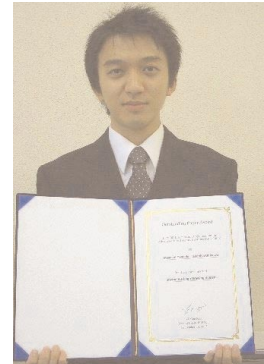
油田信一副学長

この研究は、友納氏の博士論文の一部をなす内容で、移動ロボット分野で近年研究が活発化しているSLAM（Simultaneous Localization and Mapping）に向けてロボットの自己位置推定やナビゲーションに新しい考え方と手法を導入したことが評価されたものです。

鬼沢武久教授及び同教授指導のシステム情報工学研究科（博士前期課程）1年山田真司氏の共著論文がISIS2005で Outstanding Paper Awardを受賞

鬼沢武久教授（システム情報工学研究科）及び同教授指導のシステム情報工学研究科（博士前期課程）1年山田真司氏（知能機能システム専攻）の共著論文“Interactive Logo Drawing System”が、9月28日～10月1日に韓国のYeosu大学で開催された6th International Symposium on Advanced Intelligent Systems（ISIS2005）で Outstanding Paper Awardを受賞しました。

この賞は、同国際シンポジウムの各セッションで発表された論文の中から、その内容が優れているとの評価を受けた論文の著者に与えられるものです。



賞状を持つ山田真司氏

小玉正博教授と同教授指導の人間総合科学研究科3年細越寛樹氏との共著論文が平成17年度日本健康心理学会本明記念賞を受賞

小玉正博教授（人間総合科学研究科、ヒューマンケア科学専攻）と同教授指導の人間総合科学研究科3年細越寛樹氏（ヒューマンケア科学専攻）との共著論文“Examination of defensive pessimism in Japanese college students: Reliability and validity of the Japanese version of the Defensive Pessimism Questionnaire.”が研究

内容の独創性を高く評価され、平成17年度日本健康心理学会本明記念賞を受賞しました。

この賞は、同学会和文誌及び英文誌の前年度掲載論文の中でもっとも優れた論文に与えられるものです。表彰式と受賞記念講演は神戸女学院大学にて開催された第18回年次大会（9月1日～3日）で行われました。



受賞記念講演会場（神戸女学院大学）にて小玉正博教授（左）と細越寛樹氏

石塚英弘教授指導の図書館情報メディア研究科（博士後期課程）3年石川大介氏を筆頭著者とし、石塚英弘教授、宇陀則彦助教授及び藤原譲筑波大学名誉教授の共著による論文が情報知識学会の2005年の論文賞を受賞

石塚英弘教授（図書館情報メディア研究科）指導の図書館情報メディア研究科（博士後期課程）3年石川大介氏を筆頭著者とし、石塚英弘教授、宇陀則彦助教授（図書館情報メディア研究科）及び藤原譲筑波大学名誉教授の共著による論文「特許文献における因果関係の抽出と統合」（情報知識学会誌14巻4号掲載）が、情報知識学会の2005年の論文賞を受賞し、石川大介氏及び共著者共に表彰されました。この賞は、前年（2004年）の情報知識学会誌に発表された論文の中から、情報知識学の分野に最も大きな貢献をした論文に与えられるものです。



左から、宇陀則彦助教授、石塚英弘教授、藤原譲筑波大学名誉教授、石川大介氏、情報知識学会長細野公男氏及び情報知識学会誌編集委員会委員長安永尚志氏

**海後宗男講師が日本教育メディア学会 2005 年度坂元彦太郎記念教育メディア研究奨励賞を受賞**

海後宗男講師（人文社会科学部研究科，現代文化・公共政策専攻）は，第12回日本教育メディア学会年次大会で，論文「大学生の情報通信技術利用の関連要素と社会的デジタル・デバイドの階層化 - 日本型デジタル階層の構造 -」（教育メディア研究・第11巻1号2004年12月31日発行）により，日本教育メディア学会2005年度坂元彦太郎記念教育メディア研究奨励賞を受賞しました。

この論文では，2つの調査結果を検証するなかで，日本のデジタル・デバイドの現状が本来の語義である「持つ者，持たざる者」に二分されるのみではなく，様々な要素が組合わさって，多層からなる階層が形成されていることに着目し，これを「デジタル階層」と呼ぶことにした。「デジタル階層」は日本の社会的デジタル・デバイドを捉えるために用いた構成概念ではあるが，社会的文化的背景や経済状況が異なる場合にも応用が可能で，各国のデジタル・デバイドの実態を捉えやすくし，系統的にデジタル享受を推進する方略を練る上で有効だと，評価されました。



**葛岡英明助教授，同助教授指導の藤門千明氏（2004 年度理工学研究科卒）及び山下淳講師が日本バーチャルリアリティ学会論文賞を受賞**

葛岡英明助教授（システム情報工学研究科，知能機能システム専攻），同助教授指導の藤門千明氏（2004年度理工学研究科卒，現在ヤフー株式会社）及び山下淳講師（システム情報工学研究科，知能機能システム専攻）が，日本バーチャルリアリティ学会論文賞を受賞し，7月27日～29日まで東京大学で開催された日本バーチャルリアリティ学会第10回記念大会にて表彰されました。論文賞は日本バーチャルリアリティ学会が関与する科学技術分野における貢献が特に大きいと認められる論文に対し表彰し，この分野の発展をはかることを目的とした賞です。

今年度の表彰は2004年1月～12月までの1年間に日本バーチャルリアリティ学会論



藤門千明氏



山下淳講師

文誌に掲載された論文が対象となり，5件の論文に対して論文賞が授与されました。今回の論文賞は，藤門氏が在学中の2004年度に発表した論文「タンジブルアバタを利用したVR空間ナビゲーションインタフェースの評価」に対して与えられたものです。

なお，この研究は情報通信研究機構の直轄研究として行われたものです。

**今野均技術専門官が平成17年度全国大学農場技術賞を受賞**

今野均技術専門官（生命環境科学等支援室，農林技術センター）は，10月4日に名古屋ガーデンパレスで開催された平成17年度全国大学農場協議会秋季全国協議会で，

平成17年度全国大学農場技術賞を受賞しました。

この賞は，技術系職員の中で，専門的技術をもって農場等の教育・研究支援への貢献及び農場等の活性化に特に功績があった職員に与えられるものです。

全国大学農場協議会坂井直樹会長（生命環境科学研究科，教授：左）から賞状を受ける今野均技術専門官



**腰塚武志副学長指導のシステム情報工学研究科 1 年松本立子氏が日本オペレーションズ・リサーチ学会学生論文賞を受賞**

腰塚武志副学長指導のシステム情報工学研究科1年松本立子氏（社会システム工学専攻）が，9月14日，神戸学院大学で開催された日本オペレーションズ・リサーチ学会2005年秋季研究発表会にて，昨年度の社会工学類都市計画専攻卒業論文「移動距離に着目した夜間小児医療施設配置」により，第23回日本オペレーションズ・リサーチ学会学生論文賞を受賞し



松本立子氏（左）と腰塚武志副学長

ました。

この賞は、1983年に設立され、今年度は同学会員から応募された卒業論文、修士論文の中から8編が選ばれました。

受賞研究は、茨城県の夜間小児医療体制の現状を取り上げ、輪番制の効率化や病院と診療所の階層化により、現状より病院の負担を大きく増加させることなく、小児医療施設への到達時間が削減可能であることを数量的に分析したものであります。少子化や地域医療と関連する適時性を得た研究内容です。

附属聾学校陸上競技部女子が第42回全国聾学校陸上競技大会で7年連続の総合優勝、その他多数入賞

10月8日、9日の2日間にわたり、名古屋市瑞穂陸上競技場で第42回全国聾学校陸上競技大会が行われました。



附属聾学校陸上競技部

総合得点で1部女子が7連覇。また、女子4×100mリレーも4連覇し、それぞれ特別表彰を受けました。

1位：渡邊麻友さん（800m）、得利雄介君（100m、200m）、女子4×100mリレー（新留さん、居山さん、渡邊さん、町田さん）

3位：得利雄介君（走幅跳）

前号の訂正

10月5日発行の第17号5ページ上段写真の説明文「国立第29盲学校」及び「国立第116聾学校」はそれぞれ「国立第29聾学校」及び「国立第116盲学校」の誤りでした。お詫びのうえ訂正します。

「速報つくば」からのお知らせ

「速報つくば」の次回（通巻1111号）の発行は11月2日（水）、原稿締切りは10月27日（木）となります。

学内行事、イベント情報及び教職員サークル活動などの記事も募集しています。

なお、「速報つくば」への寄稿に際しては、次の事項に留意ください。

できるだけ電子メールや電子メールへの添付ファイル等にしてください。

表彰関係記載項目については、受賞者氏名、所属、受賞名、簡単な賞の説明、受賞対象論文名等（掲載誌のページ等は省略願います。）とし、授賞式の日時、場所等については、必要がある場合等を除き、省略願います。

シンポジウム等の開催案内でシンポジウム等の概要を記す場合は、なるべく400字以内としてください。

簡潔に記載してください。

採用させて頂いた原稿は、Web上に掲載しますので、ご了承願います。また、文教速報（官庁通信社発行）、文教ニュース（文教ニュース社発行）及びSTUDENTS（学生部発行）等からの情報提供依頼があった場合は、掲載情報（写真等を含む。）を提供しますのでご承知おきください。

「速報つくば」のhtml版及びPDF版は、次のアドレスでご覧になれます。

<http://www.tsukuba.ac.jp/koho/booklets/index.html>

学内ニュース、写真の提供及び掲載内容へのご意見は広報課（TEL2065、FAX2014）へお願いします。

E-mail：sokuho@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

電子メールで寄稿された方には、「速報つくば」より原稿受付等の返信メールをお送りしますので、ご確認ください。なお、返信メールが届かない場合は、お手数でも広報課までご連絡いただきますようお願いいたします。